

図書目録を見てあらためて驚いたんですけど、Uブックスって、ずいぶんいろいろ出ているんですね。

そのなかから僕が一冊選ぶとしたら、そうそうこれ。

「僕、プロドウェイで役者稼業を営むサンディ・ハヤド。キョートで演技力抜群なのになぜかさうばり売れない。その上前の恋人メアリが自殺したと聞いて大ショック……軽快にして真情あふれる語り口が『ライ麦畑でつかまえて』を思わせる。すつてクファンでちょっとびびるらしいラブ・ストーリー」(白水社の図書目録より)

トム・レオポルドの『君がそこにいて』。

いろいろな読み方が可能だと思うけど、僕も何度も読んでみたんですけど、最初は、やはり青春小説として読みました。死んだ人間の足跡を追っていく冒険というシチュエーション設定が、とても魅力的なので、読み終わったあと、ほんと、主人公と一緒に旅をしたような気持ちになれた。素直に、面白かったですね。カムシヤマさだけではない、いろいろなことを語めた、捨てるにいたりする人間の姿が、ひじょうにリアルに描かれていて、登場人物として出てくるのがカマモトも。

青春小説って、誰でもほろりしてくる、ちょっと気恥ずかしいようなもの、というイメージがある。でも、『君がそこにいて』の場合、前向きすぎないところ、好感が持てるもの、そこにあるような感じ、というか、死んでいくところから物語が始まっているところ、物語の底に流れる体温の低さを感じた、というところですかね。この小説は素直に、作品世界を楽しめる。

た。僕にとっては、純粋にエンタテインメントとして楽しんだ珍しい一冊なんです。あれは……健康(という名前)の劇団を主宰していたのです。このころから、何年前だろう、十年くらい前、かな。渋谷にあった、シードホールという小屋で、『サンデー・アフタヌーン』って題名の、一人の女性の死をきっかけに物語が進んでゆく芝居をやったことがあるんですよ。しかも、舞台となる場所も、登場人物も、全部、外国で設定。というのも、当時宮沢章夫さんに、こんなふうに言われたからなんです。

「健康の役者は、赤毛物が似合う。設定にして、手塚とおるが主人公のサンディをやって、みのすけ(という役者です)が、彼の友達を演じたんです。でも、いまになって思うと、その配役は逆のほうがよかったです。もしも、手塚とおるって、隙のない人なんですよ。みのすけのほうが、隙だらけなんです。サンディ役に向いてたんじゃないかな。」

その芝居の出演者たちも、『君がそこにいて』は読んでましたね。同じような設定にするならば、もっと、ぐんと主人公を年上にしてしまつて、妻も子供もある中年の男が、彼女が死んだ本当の理由を探し

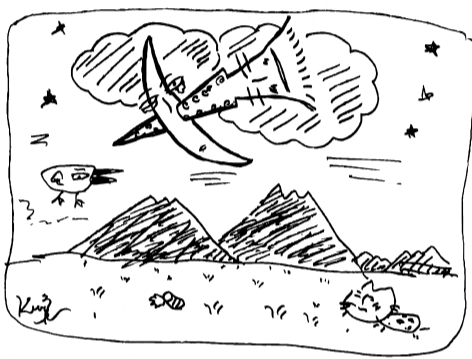
がする、それを読んでも自伝体という感じがする。そこに書かれていた人間が、たとえどんなに人間的にためでも、そこにいよう、そこでちゃんとして生きていこう、説得力があり、好きと嫌いとが、別として、否定できない。小説や芝居といったフィクションのなかで、手塚をつかためには、嘘をついている自分を、ものすくなく受け出さなくちゃいけない。そう、ついでに、レオポルドにしろオースターにしろ、タイプは全然違いますが、彼らの作風を讀むにつれて、感じます。

やはり、小説にしろ芝居にしろ、読むと、大は宇宙へ行く、という女だけで演じる西部劇としての上演したんですけど、そのときも、西部の架空の村に、演出の僕が「お白間いられるかが勝負! みたいなところがあつた。演出の僕自身が、そこにいよう、しなないと、役者に「その世界に生きる」とは、言えないわけだから。

いま、わりと精神的に健康なんで、体はあまり健康じゃないんですけど、レオポルドの『君がそこにいて』、ハワイイなものが書けるんですよ。精神的にキツかったり、病んでいたりする、レオポルド物しか書けなくなつてしまつたわけなんですけど、最近では、実生活にハワイイなことがないで、劇世界のなかで、あんなに陰鬱なことが起つても、大丈夫ですから、とまとめるのもアレですが、お芝居を見に来てくださるお客さんには、僕の書いた芝居を見て、これはハワイイな内容の舞臺だと思えたなら、ああ、ケラは全然、気なだなど思つてくださつて結構です、と申し上げておきます。

ちなみに、いま稽古している次回作の題名は、『室音』です。ニコルソン・ベイカーの作品から、ちよつと、タイトルいたたきました(談)。(筆者)

# 芝居とUブックスと私



## ケラリーノ・サンドロヴィッチ

劇作家・ミュージシャン

つまり生活感がないから、舞台にのつたときに、あまり貧乏くさくさならない。洋物をやつてもわりと違和感がない。実はそのとき、たまたま、『君がそこにいて』を、読んでいたんですよ。そして、『サンデー・アフタヌーン』の台本を執筆するにあたり、露骨にインスパイアされてしまった(笑)。

ちよつとクリスマス期の公演でした。やはり一種の冒険物語として演出したんですけど、主人公が飼っている鳥を、女優の大山久子に演じさせたんです。主人公と鳥が一緒についてまわる、ロードムービー的な

に出かけるって、いつこのほうが面白かつたかもしれないね、という話、サンディ役の手塚、くさくさならない。洋物をやつてもわりと違和感がない。『サンデー・アフタヌーン』の公演のときに、このことを覚えてます。でも、つじなかつたのは、単純に、当時はあまりに若い役者しかいなかったからなんです。

そうだなあ、Uブックスの作品のなかから、いま舞台化した作品を選んで、言われたら、最後の物たちの国で、かな。ポール・オースターの小説が好きで、よく読んでます。描かれるのは曖昧で抽象的な世界でありながらも、オースターが書く作風世界のなかには、確実にオースターが生きているって感じ、このあいた

『愛書狂』フランスでは五月六月はオークションの季節、七月からのヴァカンス入りを控えて、売りたい人と買いたい人の思惑が交錯する。今年の最大の話題は、なんといつても五月十五日にパリで催された自筆原稿手紙のオークションだろう。それと、このオークションは自筆原稿手紙、ニアばかりでなく、フランス文学の研究者にとつても文字通り、垂涎の資料ばかりだったからである。いくつか紹介してみよう。(内は落札推定価格で単位はフラン。まずバルザックがカストリ侯爵夫人に初めて出した手紙(六八万フラン)。ポードレルが『悪の華』第二版の宣伝のため寄贈相手をフリーマラシと相談している手紙(六八万)。ポードレル宛てのフロバールの手紙(十二万)。レミゼラブルの最初のプランの草稿(十七枚)十五万。レイナルド・アーンとの親しい関係を暗示するブルースト自身のイラスト(八万)。『地獄の季節』収録の『涙』のウアリアントであるランポアの自筆原稿(六十八万)。しかし、こんなことで驚いてはいけません。ヴァレリー・ラルボの『バルナブスの完全原稿(百五十、百八十万)』といった大物もあるから。だが、ウルトラ級となるとやはりセリイヌの『夜の果てへの旅』の未発見の完全原稿にとどめをさす。この原稿は一九四三年にセリイヌが画商に一万フランで売り払つて以来、行方が分からなくなつていたので、ついにオークションに現れたのである。ちなみに落札予測価格は四百五十万フラン。その価値からすれば驚くほど安い。「後記」『夜の果てへの旅』は一億八千万円ほどで落札のこと(鹿)

白水Uブックス フェア  
全国協賛書店で7月中旬より開催

白水Uブックス101  
君がそこにいてのように  
トム・レオポルト作 岸本佐知子訳  
新書判/本体九〇三円

白水Uブックス131  
最後の物たちの国で  
ポール・オースター作 柴田元幸訳  
新書判/本体八八〇円

# シエイクスピアの謎に挑む

「ハムレットは太っていた！」

河合祥一郎著



カナダでシエイクスピア三十九歳のときの肖像画が発見された、と最近新聞に報道された。これまでもシエイクスピアを巡る謎はいくつもあり、実在しなかったというものまである始末だ。

ていたのだらう。あるいは、恋するヒロインを演じたのは、どんな少年俳優だったのか。本書は、その永年の謎に答えを出そうというものである。シエイクスピアをはじめとするルネサンス期の劇作家は、特定の俳優を念頭に置いて執筆していた。俳優のイメージは劇作家に大きな影響を与えたが、資料不足のため、これまで

解きあかした点である。彼の経歴がひたすら上り坂続きだったのかどうか、そしてナチ政権への協力者としての活点はみずから招いたものだったのかどうか、という謎である。前者については、著者オズボーンはけつして公平さを忘れず、作品に没入しきった名演奏から、洗練されてはいても凡庸な演奏まで、カラヤンの芸術を鋭く幅広く指摘し、後者についても、それが思想的なものというよりも、カラヤンの日和見主義的な傾向に端を発したものであったことを一次資料をもとに突きとめている。

ルネサンス文化と現在では、体格の意味合いが根本的に違っており（たとえば、ファット。つまり、太っている」というのは、当時は、褒め言葉だった！）、当時の体格の文



カラヤンは二十世紀の音楽界でもっとも論議を呼んだ指揮者のひとりだった。壮大なこの伝記は、綿密な調査に加えて、カラヤンと共演した数多くの演奏家から集めたさまざまな証言で構成されている。ベルリン、ウィーン、ザルツブルクでの活動に中心をおきながら、世界的に名を馳せたカラヤンの全体像が描き出されている。

この本にはすくなくとも二つの謎をそろって宣伝したが、二つの謎を

# 帝王の音楽人生を克明に追う

「ヘルベルト・フォン・カラヤン」上・下

リチャード・オズボーン〔著〕



政治、宗教、科学、思想、芸術など、人間の意識を支配するあらゆる領域で、既成概念が根柢からゆすぶられ、くつがえされた激動と変革の世紀、十六世紀。その激動と変革を身をもって生き抜いたゼノンの生涯と物語

なかで、神学、哲学のみならず、医学、錬金術など、同時代の知の最先端を追究し、独自の思想を築きあげ

る。『物質界について』『プロテオリー』などの著作に開陳した無神論思想のゆえに、異端糾問所に追われる身となったゼノンは、セバステアンのテウスと名を偽って故郷プリュージウに隠れ棲む。その正体を肩抜いてい

# 精緻きわまりない歴史小説

「ユルスナール・セレクション 黒の過程」

マルグリット・ユルスナール作

第2回配本

一五二〇年プリュージウの貴族な商家に庶出の子として生まれたゼノンは、聖職者をめざす教育を受ける

ていたのだらう。あるいは、恋するヒロインを演じたのは、どんな少年俳優だったのか。本書は、その永年の謎に答えを出そうというものである。シエイクスピアをはじめとするルネサンス期の劇作家は、特定の俳優を念頭に置いて執筆していた。俳優のイメージは劇作家に大きな影響を与えたが、資料不足のため、これまで

て生命を絶つ。作者ユルスナールが主人公を内側から共に生きた精緻きわまりない歴史小説

# 音楽にささげた半世紀の批評活動の軌跡！

# 吉田秀和全集

当代きつての評論家吉田秀和の批評的業績の全容を見渡すべくテーマに則して集大成する。第一期（全10巻）につづき、一九八六年までに刊行された第11～16巻を、新たに解説を付して新装復刊。八七年以降現在までの諸著作については今秋より刊行予定。



第 期・全6巻 新装復刊

## 11 私の好きな曲

個々の音楽作品が音楽的にどういう出来上がり方をしているかを考察する。作風論の決定版

## 12 カイエド・クリテイク

長年書きつづけられてきた「批評草紙」「批評家の手帳」のなかから、「音楽」を対象としたものを収める。

## 13 音楽家のごと

具体的な分析に基づいた作曲家論と演奏そのものに即して演奏家を捉えた演奏家論を併せ収める。

## 14 ディスクの楽しみ

レコード、CDからビデオ・ディスクまで鑑賞のポイントを解りやすく説く。

## 15 カイエド・クリテイク

著者の日常と諸芸術との触れあいを綴った珠玉のエッセイを収録したほか、自伝抄を併録。

## 16 芸術随想

美術論を中心に芸術論を集めた。鋭い審美の耳と目をもって西歐芸術の深奥に迫る。

第 期・全10巻 新装復刊

## 1 キツァルト・ベートーヴェン

（篠田一士解説 六一七頁 本体四五〇〇円）

## 2 主題と変奏

（遠山一行解説 四五六頁 本体三六〇〇円）

## 3 二十世紀の音楽

（船山隆賢解説 五二二頁 本体四〇〇〇円）

## 4 現代の演奏

（高橋悠治解説 四六六頁 本体二七〇〇円）

## 5 指揮者について

（川村二郎解説 四九〇頁 本体二八〇〇円）

## 6 ピアノについて

（柴田南雄解説 四九〇頁 本体二八〇〇円）

## 7 名曲二〇選

（高橋英郎解説 五二二頁 本体四〇〇〇円）

## 8 音楽と旅

（畑中良輔解説 四八八頁 本体二八〇〇円）

## 9 音楽展望

（林光解説 五六八頁 本体四三〇〇円）

## 10 エッセイ

（菅野昭正解説 五五六頁 本体四三〇〇円）

各四六判 セット本体三九八〇〇円

# 白水社の本棚

101-0052 東京都千代田区神田小川町3-24 / 振替00190-5-33228 / 電話03-3291-7811 / http://www.hakusisha.co.jp

# ジロドゥ戯曲全集

[全6巻]

内村直也・鈴木力衛編



近代フランス最高の劇作家の全集、待望の復刊。

古くからわが国の演劇界にも大きな影響を与え、近年では劇団四季の上演で知られるジャン・ジロドゥ。人間の運命を見ずえる巨匠の全集、待望の新装復刊。

各四六判/上製 揃価三二八〇〇円(分売可)

## 全巻内容

### ジークフリート

ジークフリート付記

### アンフィトリオン

38

### 「ディット」

### 間奏曲

### テッサ

### トロイ戦争は起こらない

### クック船長航海異聞

### パリ即興劇

### エレクトル

### カンティク・ネ・カンティク

### ソドムとモモ

### オンディーヌ

### ベルラックのアポロ

### ルクレチアのために

### シャイヨの狂女

### 鈴木力衛・菅野昭正・安堂信也訳

### 四〇四頁 三八〇〇円

### 内村直也・矢代静一・安堂信也・諏訪正訳

### 三六〇頁 三八〇〇円

### ベルラックのアポロ

### ルクレチアのために

### シャイヨの狂女

### 鈴木力衛・菅野昭正・安堂信也訳

### 四〇四頁 三八〇〇円

7月中旬刊

## 新装復刊

表示価格は税別です。別途に消費税が加算されます。

# スリルに満ちた快作

## 「チューリップ熱」

デボラ・モガー「作」



これは刊行と同時にイギリスで大評判となり、あのS・スリルバークがたまたま映画化権を買った美に魅力的な小説である。

舞台は十七世紀オランダの運河の町アムステルダム。当時オランダは七つの海に覇を唱え、経済的繁栄を謳歌していた。絵画芸術が花開き、レンブラントやフェルメールらの巨匠が腕をふるい、また品種改良が進

んだチューリップに人々の投機熱が異様な高まりを見せていた時代でも二人は激しい恋に落ちる。

妻と子供に先立たれた初老の貿易商コルネリスは、若く美しいソフィアを後妻に娶っていた。事件はコルネリスが夫婦の肖像画を描かせるためにヤン・ファン・ロースなる新進画家を雇ったこと始まった。家に来て二人はポーズをとらせるヤンの

紙めぐるような眼差しに若い妻ソフィアは危険なものを感ずるが、やがて二人は激しい恋に落ちる。

夫の目を盗んで女中の服に身を包み、夜道をヤンのアトリエに走るソフィア。だが女中のマリアは女主人の秘めた恋に気づいていた。いつばマリアには魚売りのウィレムという恋人がいて、彼女はウィレムの子を宿すが、ふとした誤解からウィレ

ムはマリアを捨てて海に出ていってしまふ。マリアに妊娠を生けけられたソフィアは彼女に暇を出さずとするが、女中は女主人の不倫を種に彼女を脅す。切羽つまったソフィアは大胆不敵な計画を思いつき、ヤンとマリアに片棒を担がせる。果たしてその策謀は成功するのか……。

スリルな設定と巧みな人物描写に加え、作者はこの本にフェルメールをはじめとする当時の名画を原色であしらひ、時代と風俗を見事に再現するという巧緻な仕掛けをほどこしている。(石光光子訳 四六判 三〇四頁 カラー図版一六頁 本体一三〇〇円)

# 全米で絶賛された話題作

## 「ウィット」

マーガレット・エドソン「作」



大学教授が末期の卵巣癌に冒された。診察にあたったのは、同僚のケレキアン教授とポスター医師だった。ポスターは、かつての教え子で彼女の授業は厳格なことで知られていた。彼は最良と思われる治療を施すが、薬のせいで、髪の毛のすべてを失い、嘔吐に苦しむ毎日が続く。見舞いに来るものはいない。唯一、親身になって世話をし、話し相手になるのは看護婦のスージーだけだ。

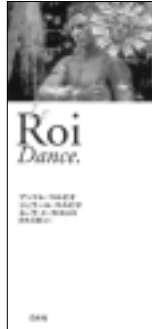
た、このスージーとの出会いにより、これまでの知的探究や学術的栄誉が、なんの役にも立たないこと、そして、他人のやさしきで心が癒されることをヒビアンは知った。

ある日、スージーから呼吸が停止した際、集中治療室に入るが、自然の成り行きに任せて生を終えるかどうかの相談があった。ヒビアンは悩んだ末、ある答えを出した。数日後、ポスターが回診に来たとき、すでにヒビアンの呼吸は止まっていた。彼が取った処置はヒビアンの意思に反する。研究のための人工蘇生だった……。

一九九九年、全米で感動を呼んだこの作品は、その年のヒュリツァー賞、ニューヨーク批評家協会賞など、六つの演劇賞を受賞した。ニューヨーク・タイムズ紙は、「比類なき体験。聡明で、思慮深く、ウィットに富んでいて、心を締め付ける」と絶賛した。イギリス、フランスでも上演され、フランスでは、女優ジャンヌ・モローが演出を担当し、好評だった。また、エマ・トンプソン主演、マイク・ニコルズ監督で映画化され、二〇〇一年のベルリン映画祭で、審査員特別賞を受賞した。

著者は、ジョージア州アトランタの小学校の先生。本作が処女作である。(鈴木小百合訳 四六判 一一四頁 本体一六〇〇円)

# 王は踊る



## 太陽王とふたりバティスト

「王は踊る」

アンドレ・コルビオ ジェラルド・コルビオ、エドワード・カストロ「作」

十七世紀のフランス、太陽王として名を轟かせたルイ十四世は、まだ、プロ級の腕前をもつダンサーであった。そのルイとイタリア出身の宮廷音楽家リウリ、そして劇作家モリエール。その三者の思つまる葛藤を軸に、「芸術と政治」というテーマを壮大かつ華麗に描ききった傑作である。

楽、台詞、踊りの一体化)によって新体制を敷き、旧体制(王太后、長老派)を排除してフランスをヨーロッパの覇者としてしようと目ざした。そして野心家のリウリは音楽によって王を「踊らせ」、王を通じて世界のシンボルたらしめる。リウリとともに「ふたりバティスト」と称されたジャン・パティスト・モリエールは才気煥発ゆえに失墜してゆく……。

ルイ十四世という「踊る王」の身体に託されたフランス絶対王政の興隆が全編をつらぬき、静かな感動を誘う。『カストロ』の名匠コルビオが絢爛豪華に仕立てあげた同名映画の原作シナリオ。(鈴木美穂訳 四六判 一一六頁 本体一六〇〇円)

映画化 **王は踊る** ジェラルド・コルビオ [監督] 東京:シネマライズ渋谷にて7月20日公開 順次全国ロードショー 配給:日本ヘラルド映画

# 少女の心のふるえ

## 「屋根にのぼって」

オードリー・コルンピス「作」



あたし、十三歳のウィラ・ジョーは、パティおばさんの家の屋根にのぼって。ここにのぼった理由は一口ではいえない。でも「小さい妹、まあとをついまであとをついてくるとは思わなかった。下ではおばさんがかんかんになっている。あたしと小さい妹は、ベイビーが死んでからパティおばさんの家に預けられた。小さい妹はベイビーが死んだあと、どこも口をきかなくなった。ベイビー」といっのはいっばい下の赤ん坊。彼女が死んでから、ママは家のことを何もしなくなった。見かねたおばさん(ママの姉

さんだ)があたしたちを引き取った。でもおばさんはあたしたちを自分の思い通りにしようとする。ますみつともない服を着せ、へんてこな革のサンダルをはかされた。近所に気

「この世の悪夢を愛するあなたに」 マシン日記／悪霊 松尾スス圭「作」

東京都大田区で機械工場を営んでいる兄弟、アキトシとミチオ。ある日、彼らの前に、アキトシの妻・サチコの中学時代の恩師、元体育教師のケイ「先生」が、工場のパートタイマーとして現われたことから始まる。グロテスクな日常……(マシン日記)



ウネハラ家を女手ひとつで支えてきたキメの一人息子、タケヒ。彼は、相方のハチマンにも、妻のナミエにも内緒で、悪霊と契約を取り交わしている。とつて、も彼らに取り憑いて離れない、売れない上方漫才コンビの悲喜劇……(悪霊)

性愛を軸とした男女の四角関係が渦を巻き、いびつな家族の肖像が描かれてゆく作品を、一挙収録! 『私は』お洒落と呼ばれたいものと決別し、「この世の悪夢を愛するあなただけに」この身を捧げ、力あるかぎり七転八倒する所存です。私は日本で数少ない、いい歳していま

# ブックフェアのお知らせ

表示価格は税別です。別途に消費税が加算されます。 101-0052 東京都千代田区神田小川町3-24 / 振替00190-5-33228 / 電話03-3291-7811 / http://www.hakusuisha.co.jp

## 白水社の本棚

# 心がふるえる 10冊の本

### 白水社ヤングアダルト・フェア

全国の協賛書店で開催中!

### シエイクスピアを盗め!

ゲアリー・ブラックウッド 安達まみ「訳」 舞台は四百年前のロンドン。孤児の少年ウィッツが、当時人気絶頂のシエイクスピアの台本を「盗む」役目を言いにつかった! 1700円

### 悪童ロベットの冒険

キャサリン・パターソン 岡本浜江「訳」 国際アンデルセン賞、ニューベリー賞受賞作家による現代版「ハックルベリー・フィン」。牧師の息子がまさにおこす愉快な大騒動。1600円

### イルカの歌

カレン・ハス 金原瑞人「訳」 イルカに育てられた少女が人間の世界に戻った時、驚きと、喜びと、胸をしめつける悲しみが待っていた。1500円

### カマエに飛ぶことを教えた猫

リスセラルベタ 河野万里子「訳」 猫のソルバが誓った三つの約束、でもその約束を守るには、大いなる智慧とまわりのみんなの協力が必要だった……。1500円

### 片目のオオカミ

ダニエル・ペナック 末松水海子「訳」 人間に傷つけられ、生きる気力も失っていた片目のオオカミは、限りなく優しい心の少年によって力を取り戻す。1500円

### 星を見つけた三匹の猫

ヨルク・リッター 鍋谷由子「訳」 フレデリック、カストロ、リンゴは障害をもつ猫とネズミ主マードックとの戦い! 魂の成長を描くメルヘン。2000円

### ライ麦畑でつかまえて

J・Dサリンジャー 野崎孝「訳」 高校を退学し、NYを一人でさまよった少年の目に映じたものは? 永遠のベストセラー。「単行本1700円」「白水UPボックス」820円

### 海の上のピアリスト

アレクサンドロ・バロツコ 草野伸子「訳」 海の上で生まれ、一度も船を降りることなかった天才ピアリストの伝説。それはいまだかつて存在しない音楽だった……。1200円

### 豚の死なない白

口バート・N・ベック 金原瑞人「訳」 続・豚の死なない白

### 続・豚の死なない白

家族のきずな、生きることの喜びと悲しみが、ユーモアと切なさを交えて語られる。感動のロングセラー。「単行本1456円」「白水UPボックス」800円

【白水Uブックス137】

「三つの小さな王国」

ステイヴン・ミルハウザー「作」

鬼才ミルハウザーの美しくも怪奇な戦慄にあふれた中篇小説集。

巻頭の「ミランクリンペインの小さな王国」は一九〇年代ニューヨークの漫画家の物語。主人公には機械化の波が

【白水Uブックス138】

「踏みはずし」

ミシェル・リオ「作」

財界の大物のスキャンダルをつかんだジャーナリストの前に、暗殺者が現れた。だが、歴史書を読み、哲学的なゼリフを口にする殺し屋は、ある条件と交換に、ジャーナリストの妻と娘の写真を譲渡する。

【白水Uブックス139】

「薔薇の葬儀」

アンドレ・ピエール・ド・マンディアル「作」

エロスと死、残酷と幻想、毒の禁忌、悪魔と愛。三篇や合騎への接近はマンディアルの世界にさらに豊穡な美しさをもたらした。

神秘的な女主人公の死の儀式を執り行なう四人の日本人女

文庫クセジュ

841「印欧語」

ジャン・オドリ「著」

押し寄せるなか、手作りでアニメーションを製作する夢があった。愛する妻と娘を遠ざけて夜ごと部屋に閉じこもって描き続ける彼の家庭に不幸の影がひびく。一作目の王妃小人、十作は由世の城に住む美しい王妃と王。そしてこの城の客となる美男の功徳伯の三人が巻き込まれる愛と猜疑心の地獄を究明に挑む。最後を飾る、展覧会のカタログは十九世紀前半のアメリカで活躍した異端の画家の呪われた人生を絵画解説のスタイルで描く異色の作品。

(柴田元善訳 新書判 二八八頁 本体九八〇円)

フランスの推理小説生誕地は「不気味なまでの冷徹で暴力まじりの官能性をそなえた、仮借ないほど濃密な」の物語は、小さな玉粒と評された。

「リオの小説がはたつたに、ある種のやり切れなき、所在なさ救いのない失墜感が滲み出ている……」(破綻していく理論の夢のよう甘さと苦味、それがミシェル・リオの特徴のひとつだ。そのなら、踏みはずしは……)彼の精神を最もよく伝える作品だと言えよう。(記者「ト」より)

(堀江敏幸訳 新書判 二五六頁 本体八八〇円)

性捕らえられた男の体験を描く表題作にもつかがわれるようにマンディアルは日本に強い関心を抱いていた。あるエッセイのなかで「ウエネチアと日本にはいくつもの共通点がある。女性の官能(奇む)とき欲望が真に理解されているのは、この西国の人間によつてだけである」と述べている。自ら自身の官能にまつたものがあった。また、他に、クレタ島を舞台にした「シックス・アイン・ヌ・アグニ」など、晩年の七篇をおもむく最後短編集である。

(田中義典訳 新書判 一九〇頁 本体九五〇円)

編集者

「印欧語」

ジャン・オドリ「著」

良い本はかならず読者の手元に届く。信じて日夜編集作業に励んでいるが、パソコンとキータイパーの世の中、活字の世界にひたる喜びを知る人が少なくなつたのは非常に悔しい。とつい愚痴っぽくなるが、後ろ向きではない。と、ホームページの「編集者からのひとこと」を添えることになった。新鮮な本を生産者直送のノリでお届けしようというわけだ。今回小生編集

アジアの多くの言語と、西欧の大部分の言語とのあいだに、共通する数多くの明確な「対応一致」が見られるのは、なぜか？ その対応を説明するには、かつて一つの祖先言語が存在していたと考える必要がある。その仮定上の言語が、印欧語である。そして、印欧語から産み出された諸言語は印欧諸語と呼ばれており、それらの言語群を総称して印欧語族という。

本書は、ヨーロッパとアジアの言語のあいだに見られる「対応一致」をつぶさに検証しながら、音韻論・形態論・語彙論などを通じて、印欧語族の特徴を解説する。「ヨーロッパとアジアの言語の祖先」を探るにあたり最適な入門書。

(岩本忠訳 新書判 一七〇頁 本体九五〇円 7月下旬発売)

編集部

「印欧語」

ジャン・オドリ「著」

集の本はエロティックでハラハラアドレナリックのチクリン熱、軽快なユーモアと爽やかな感動の「屋根のぼつて」の作中、ホームページでも「驚き」になってください。

さてこのころ小社の本の書評掲載が好調で、サッカーの敵「さんずい」の『フランス小説の扉』カフカ小説全集と各紙で絶賛を浴びている。小生担当の「冊もせひあやかりたいもの」(Z)

昨年から営業で東海地方を担当している。今まで未知の地だった名古屋にも、何回か訪れた。名古屋名物はいろいろあるが、きしめん・味噌煮込みうどん・味噌カツ・味噌汁・手羽先など独特の食文化は、一通り食べてみたがどれも好みに合うので、たのしみのひとつになっている。そして忘れてならないのが、サッカーリーグのグランパスエイトだ。ホームの瑞穂陸上競技場で何試合か観戦することができた。チームの大黒柱は世界的にも有名な、ユゴスラヴィア人ファンタジスタ、ピ

クリー「とドラガン・スティコウィッチ。息を飲む華麗なテクニックと、広い視野から繰り出す正確無比なパスに感嘆。フリーキックから、個人技から多くの印象深い得点シーンも演出してくれた。しかしクリーは、この7月で引退してしまつた。偉大な名古屋愛物が消えてしまつたのは本当に残念だ。

【お薦め】

住所表記が変更になりました。御名前、新住所・旧住所お届けいたしております。本紙のお客様コードをお知らせください。

断られたらジャン・ジュネだ。堀江敏幸は「夜の果て」の旅を嫌がる。中条重平は「地下鉄のザジ」はどうか(既訳に不満があるものをあげているわけではない)。フランスマのなかから選んで、いまが「あなた」の眼鏡、ではなく「この人」の眼鏡、ではないか。この眼鏡には「この人」というコンセプト。翻訳を頼む場合も、たいていはこの眼鏡屋式だが、ときには「この人」をいかにこの人(以下敬称略)野崎敏には「地獄の季節」をぶつけてみたいが、

岸本佐知子さんから聞いた話だが、自由が丘に知る人ぞ知るヘンな眼鏡屋があつて、店に入る、しばらく人の顔を観察してから「ただこれ、これです」と出してきて、それで間違いないのだそう。つまり、「この人」は「この眼鏡」ではなく「この眼鏡」は「この人」というコンセプト。翻訳を頼む場合も、たいていはこの眼鏡屋式だが、ときには「この人」をいかにこの人(以下敬称略)野崎敏には「地獄の季節」をぶつけてみたいが、

本の十字路

断られたらジャン・ジュネだ。堀江敏幸は「夜の果て」の旅を嫌がる。中条重平は「地下鉄のザジ」はどうか(既訳に不満があるものをあげているわけではない)。フランスマのなかから選んで、いまが「あなた」の眼鏡、ではなく「この人」の眼鏡、ではないか。この眼鏡には「この人」というコンセプト。翻訳を頼む場合も、たいていはこの眼鏡屋式だが、ときには「この人」をいかにこの人(以下敬称略)野崎敏には「地獄の季節」をぶつけてみたいが、

断られたらジャン・ジュネだ。堀江敏幸は「夜の果て」の旅を嫌がる。中条重平は「地下鉄のザジ」はどうか(既訳に不満があるものをあげているわけではない)。フランスマのなかから選んで、いまが「あなた」の眼鏡、ではなく「この人」の眼鏡、ではないか。この眼鏡には「この人」というコンセプト。翻訳を頼む場合も、たいていはこの眼鏡屋式だが、ときには「この人」をいかにこの人(以下敬称略)野崎敏には「地獄の季節」をぶつけてみたいが、

断られたらジャン・ジュネだ。堀江敏幸は「夜の果て」の旅を嫌がる。中条重平は「地下鉄のザジ」はどうか(既訳に不満があるものをあげているわけではない)。フランスマのなかから選んで、いまが「あなた」の眼鏡、ではなく「この人」の眼鏡、ではないか。この眼鏡には「この人」というコンセプト。翻訳を頼む場合も、たいていはこの眼鏡屋式だが、ときには「この人」をいかにこの人(以下敬称略)野崎敏には「地獄の季節」をぶつけてみたいが、

断られたらジャン・ジュネだ。堀江敏幸は「夜の果て」の旅を嫌がる。中条重平は「地下鉄のザジ」はどうか(既訳に不満があるものをあげているわけではない)。フランスマのなかから選んで、いまが「あなた」の眼鏡、ではなく「この人」の眼鏡、ではないか。この眼鏡には「この人」というコンセプト。翻訳を頼む場合も、たいていはこの眼鏡屋式だが、ときには「この人」をいかにこの人(以下敬称略)野崎敏には「地獄の季節」をぶつけてみたいが、

断られたらジャン・ジュネだ。堀江敏幸は「夜の果て」の旅を嫌がる。中条重平は「地下鉄のザジ」はどうか(既訳に不満があるものをあげているわけではない)。フランスマのなかから選んで、いまが「あなた」の眼鏡、ではなく「この人」の眼鏡、ではないか。この眼鏡には「この人」というコンセプト。翻訳を頼む場合も、たいていはこの眼鏡屋式だが、ときには「この人」をいかにこの人(以下敬称略)野崎敏には「地獄の季節」をぶつけてみたいが、

断られたらジャン・ジュネだ。堀江敏幸は「夜の果て」の旅を嫌がる。中条重平は「地下鉄のザジ」はどうか(既訳に不満があるものをあげているわけではない)。フランスマのなかから選んで、いまが「あなた」の眼鏡、ではなく「この人」の眼鏡、ではないか。この眼鏡には「この人」というコンセプト。翻訳を頼む場合も、たいていはこの眼鏡屋式だが、ときには「この人」をいかにこの人(以下敬称略)野崎敏には「地獄の季節」をぶつけてみたいが、

断られたらジャン・ジュネだ。堀江敏幸は「夜の果て」の旅を嫌がる。中条重平は「地下鉄のザジ」はどうか(既訳に不満があるものをあげているわけではない)。フランスマのなかから選んで、いまが「あなた」の眼鏡、ではなく「この人」の眼鏡、ではないか。この眼鏡には「この人」というコンセプト。翻訳を頼む場合も、たいていはこの眼鏡屋式だが、ときには「この人」をいかにこの人(以下敬称略)野崎敏には「地獄の季節」をぶつけてみたいが、

断られたらジャン・ジュネだ。堀江敏幸は「夜の果て」の旅を嫌がる。中条重平は「地下鉄のザジ」はどうか(既訳に不満があるものをあげているわけではない)。フランスマのなかから選んで、いまが「あなた」の眼鏡、ではなく「この人」の眼鏡、ではないか。この眼鏡には「この人」というコンセプト。翻訳を頼む場合も、たいていはこの眼鏡屋式だが、ときには「この人」をいかにこの人(以下敬称略)野崎敏には「地獄の季節」をぶつけてみたいが、

断られたらジャン・ジュネだ。堀江敏幸は「夜の果て」の旅を嫌がる。中条重平は「地下鉄のザジ」はどうか(既訳に不満があるものをあげているわけではない)。フランスマのなかから選んで、いまが「あなた」の眼鏡、ではなく「この人」の眼鏡、ではないか。この眼鏡には「この人」というコンセプト。翻訳を頼む場合も、たいていはこの眼鏡屋式だが、ときには「この人」をいかにこの人(以下敬称略)野崎敏には「地獄の季節」をぶつけてみたいが、

断られたらジャン・ジュネだ。堀江敏幸は「夜の果て」の旅を嫌がる。中条重平は「地下鉄のザジ」はどうか(既訳に不満があるものをあげているわけではない)。フランスマのなかから選んで、いまが「あなた」の眼鏡、ではなく「この人」の眼鏡、ではないか。この眼鏡には「この人」というコンセプト。翻訳を頼む場合も、たいていはこの眼鏡屋式だが、ときには「この人」をいかにこの人(以下敬称略)野崎敏には「地獄の季節」をぶつけてみたいが、

断られたらジャン・ジュネだ。堀江敏幸は「夜の果て」の旅を嫌がる。中条重平は「地下鉄のザジ」はどうか(既訳に不満があるものをあげているわけではない)。フランスマのなかから選んで、いまが「あなた」の眼鏡、ではなく「この人」の眼鏡、ではないか。この眼鏡には「この人」というコンセプト。翻訳を頼む場合も、たいていはこの眼鏡屋式だが、ときには「この人」をいかにこの人(以下敬称略)野崎敏には「地獄の季節」をぶつけてみたいが、

かゆい所に手が届く画期的辞書

【書評再録】 評者：鹿島茂

白水社ラリス仏和辞典

三宅徳嘉・六鹿豊「監修」 B6変型 1277頁 本体4200円 【大活字版】 菊判変型 本体8800円



中村さんごとの「パリのトイレでシルブレッ……」(角川文庫)を読んでいたらこんな話が出ていた。パリで腹をこわして有料トイレにかけこんだ時、突然ドアのロックが解除された。あわててドアの取っ手を引っ張ると向こうはムキになって開けようとする。「焦った私は、もう意味も考えずにうわすった声で叫んでいた。『シルブレッ……』。すると、相手は「パルドン」といって、扉から手を放した。「やれやれ……。だが、用を足し終わって、よあーく考えてみると、『シルブレッ』ってのは『ごめぞ』とゆー意味なのだった。(中略)うーむ、恥すかしい……」

この部分を読んで、「うんざり、恥すかしい」と思った。しかし、既存の辞書には確かにSil vous plaîtの訳語は「どうぞ、お願いします」としか出ていない。そこへタイミングよく本書が送られてきたので早速Sil vous plaîtを探すと「お願いします、すみませんが」の訳語に続いて「依頼・命令・注文などに添えて、また用事があつてこちらに気がつかせるときにも使つて」と解説があり「Sil vous plaît—Oui—Je voudrais acheter ce cake au lemon【ジャン・ジュネがつかない係員に対して】もしも、ちやうどすみませんが、何でしよう。この小包、日本に送りたいんですけど」という例文があつている。だから、ええ、あなたのSil vous plaîtは、こちらの存在に気がつかずドアを開けようとする相手に注意を喚起する発話だから「これでいいのである。トイレに」入っています。の正しい表現はOuiがぶさかっています。か「Je voudrais acheter ce cake au lemon」直訳すれば「だれがいます。……」だろが、咄嗟にこちらの存在をアピールする表現として「Sil vous plaît」は決して悪くない。

この一例からわかるように、本書は従来の訳語中心の辞書とはまったく異なる方針で編集されている。ラルリス社がフランス語を学ぶ外国人のために編んだ機能辞典中心の「外国語としてのフランス語辞典」をベースにして語彙と用法の懇切丁寧なニュアンスを書き加えたものだからである。通例の辞書の収録語数が一万から三万であるのに対し、ラルリスは八千だが密度が断然ちがう。

特に詳しいのは動詞で、主語に人が来た場合とモノが来た場合の意味と用法の違いなどが「何となく」手が届くように説明されている。

また、名詞の語義も大胆な「うんざり」で踏み込んだ解釈がなされている。sil vous plaîtを引くと、2. 試験、エッセイ。sil vous plaîtは、ある特定の問題を論じた試論のこと。日本語の「エッセイ」随筆のよつに、意の赴くままに感想・見聞などをまとめた文章のことではない。とほつきりした定義がある。訳語も「考えられていて Ban coang」を「何かしつとある人に向かひつ」じゃ、頑張りつたやつ」とは同義。

形容詞は同義語の差異説明が特徴で、日本人には「出来事・現象」(十中八九)ありそうなき、起りそうなき過去・現在・未来のことについて与えられた情報にもつき、あるいは論理的に推測する。話し手の確信度は certain「確実な」より低く possible「可能」より高い」とある。

フランス語をより正しく理解し、書き話したいと思う人、いや、言葉に関心のある人ならだれにでも強く勧めたい画期的な辞書である。

(毎日新聞平成13年7月27日号評)

断られたらジャン・ジュネだ。堀江敏幸は「夜の果て」の旅を嫌がる。中条重平は「地下鉄のザジ」はどうか(既訳に不満があるものをあげているわけではない)。フランスマのなかから選んで、いまが「あなた」の眼鏡、ではなく「この人」の眼鏡、ではないか。この眼鏡には「この人」というコンセプト。翻訳を頼む場合も、たいていはこの眼鏡屋式だが、ときには「この人」をいかにこの人(以下敬称略)野崎敏には「地獄の季節」をぶつけてみたいが、

断られたらジャン・ジュネだ。堀江敏幸は「夜の果て」の旅を嫌がる。中条重平は「地下鉄のザジ」はどうか(既訳に不満があるものをあげているわけではない)。フランスマのなかから選んで、いまが「あなた」の眼鏡、ではなく「この人」の眼鏡、ではないか。この眼鏡には「この人」というコンセプト。翻訳を頼む場合も、たいていはこの眼鏡屋式だが、ときには「この人」をいかにこの人(以下敬称略)野崎敏には「地獄の季節」をぶつけてみたいが、

断られたらジャン・ジュネだ。堀江敏幸は「夜の果て」の旅を嫌がる。中条重平は「地下鉄のザジ」はどうか(既訳に不満があるものをあげているわけではない)。フランスマのなかから選んで、いまが「あなた」の眼鏡、ではなく「この人」の眼鏡、ではないか。この眼鏡には「この人」というコンセプト。翻訳を頼む場合も、たいていはこの眼鏡屋式だが、ときには「この人」をいかにこの人(以下敬称略)野崎敏には「地獄の季節」をぶつけてみたいが、

断られたらジャン・ジュネだ。堀江敏幸は「夜の果て」の旅を嫌がる。中条重平は「地下鉄のザジ」はどうか(既訳に不満があるものをあげているわけではない)。フランスマのなかから選んで、いまが「あなた」の眼鏡、ではなく「この人」の眼鏡、ではないか。この眼鏡には「この人」というコンセプト。翻訳を頼む場合も、たいていはこの眼鏡屋式だが、ときには「この人」をいかにこの人(以下敬称略)野崎敏には「地獄の季節」をぶつけてみたいが、

断られたらジャン・ジュネだ。堀江敏幸は「夜の果て」の旅を嫌がる。中条重平は「地下鉄のザジ」はどうか(既訳に不満があるものをあげているわけではない)。フランスマのなかから選んで、いまが「あなた」の眼鏡、ではなく「この人」の眼鏡、ではないか。この眼鏡には「この人」というコンセプト。翻訳を頼む場合も、たいていはこの眼鏡屋式だが、ときには「この人」をいかにこの人(以下敬称略)野崎敏には「地獄の季節」をぶつけてみたいが、

断られたらジャン・ジュネだ。堀江敏幸は「夜の果て」の旅を嫌がる。中条重平は「地下鉄のザジ」はどうか(既訳に不満があるものをあげているわけではない)。フランスマのなかから選んで、いまが「あなた」の眼鏡、ではなく「この人」の眼鏡、ではないか。この眼鏡には「この人」というコンセプト。翻訳を頼む場合も、たいていはこの眼鏡屋式だが、ときには「この人」をいかにこの人(以下敬称略)野崎敏には「地獄の季節」をぶつけてみたいが、

断られたらジャン・ジュネだ。堀江敏幸は「夜の果て」の旅を嫌がる。中条重平は「地下鉄のザジ」はどうか(既訳に不満があるものをあげているわけではない)。フランスマのなかから選んで、いまが「あなた」の眼鏡、ではなく「この人」の眼鏡、ではないか。この眼鏡には「この人」というコンセプト。翻訳を頼む場合も、たいていはこの眼鏡屋式だが、ときには「この人」をいかにこの人(以下敬称略)野崎敏には「地獄の季節」をぶつけてみたいが、

「CDゼミ フランス語聴解コース」 NHKラジオ講座で旅を聴く

アラン・ロシエ、宮原信【著】

聴いて解かる！ ビエール・ロチ綴る長崎の縁日、スタンダールのイタリア安心ガイド、モーパッサンの気球冒険旅行、ゴティエのスペインの昼寝、イエズス会士の中国布教、プーガンヴィルの航海記とディドロの批判ほか、旅をめぐる名文とアラン・ロシエによる卓抜な解説を反復リスニング。聴解力が確実に身に付きます。中身の濃いCDゼミナールが新装版でお求めやすくなりました。

A5判 107頁 本体2800円【CD付】

「あなたにもできるフランス語通訳ガイド2001年版」

滑川明彦【著】

お待たせしました！ 通訳試験の案内から反射神経を鍛える基礎トレーニング、意外に知らない日本文化の知識と表現、新省庁名、世界の国名から衣食住の語彙集まで、もりだくさんのロングセラー最新版。通訳ガイド試験最新問題(平成8年度~平成12年度)と解答付き。

日本語・フランス語ともに収録した自己トレーニング用別売テープあり(各年度版共通)。ラボ教材にも最適です。

四六判 253頁 本体2600円 別売カセット本体4200円

「ハンガリー語の入門」CD付

早稲田みか【著】

ヨーロッパのほぼ中央に位置する小さな国、ハンガリー。おいしいトカイワイン、ドナウの真珠とよばれる美しい首都ブダペストを目当てに、旅行先としても人気上昇中。そこで話されることばは、日本語と意外に似ています。名前は姓名の順に言いますし、単語の後に「てにをは」にあたる接尾辞を付けて文法的な関係を表します。

本書は、学習プランが一目瞭然の見やすい構成と、豊富な例文&スキットで、初歩から中級まで、一步一步たのしく確実に学習できる「入門決定版」です。CD付で「聞く・話す」も思いのまま！ 充実単語リスト付。

A5判 286頁 本体3600円【CD付】 7月下旬発売

「エクスプレス カタルーニャ語」

田澤耕【著】

カタルーニャ語、それはイベリア半島南東部、スペイン第2の都市バルセロナを中心としたカタルーニャ地方で中世の昔から話し継がれてきたことばです。スペイン語(カスティーリャ語)とは一線を画するユニークな形態と発音をそなえ、ピカソやダリ、ガウディを育て、バレンシアやマヨルカ島・サルデーニャ島などでも使われる、南欧の歴史の香り高いこの言語を、おなじみのエクスプレス・シリーズで「速く確実に」学んでみませんか。

四六判 138頁 本体2400円 別売CD本体2820円 7月下旬発売

岸本佐知子さんから聞いた話だが、自由が丘に知る人ぞ知るヘンな眼鏡屋があつて、店に入る、しばらく人の顔を観察してから「ただこれ、これです」と出してきて、それで間違いないのだそう。つまり、「この人」は「この眼鏡」ではなく「この眼鏡」は「この人」というコンセプト。翻訳を頼む場合も、たいていはこの眼鏡屋式だが、ときには「この人」をいかにこの人(以下敬称略)野崎敏には「地獄の季節」をぶつけてみたいが、

昨年から営業で東海地方を担当している。今まで未知の地だった名古屋にも、何回か訪れた。名古屋名物はいろいろあるが、きしめん・味噌煮込みうどん・味噌カツ・味噌汁・手羽先など独特の食文化は、一通り食べてみたがどれも好みに合うので、たのしみのひとつになっている。そして忘れてならないのが、サッカーリーグのグランパスエイトだ。ホームの瑞穂陸上競技場で何試合か観戦することができた。チームの大黒柱は世界的にも有名な、ユゴスラヴィア人ファンタジスタ、ピ

良い本はかならず読者の手元に届く。信じて日夜編集作業に励んでいるが、パソコンとキータイパーの世の中、活字の世界にひたる喜びを知る人が少なくなつたのは非常に悔しい。とつい愚痴っぽくなるが、後ろ向きではない。と、ホームページの「編集者からのひとこと」を添えることになった。新鮮な本を生産者直送のノリでお届けしようというわけだ。今回小生編集